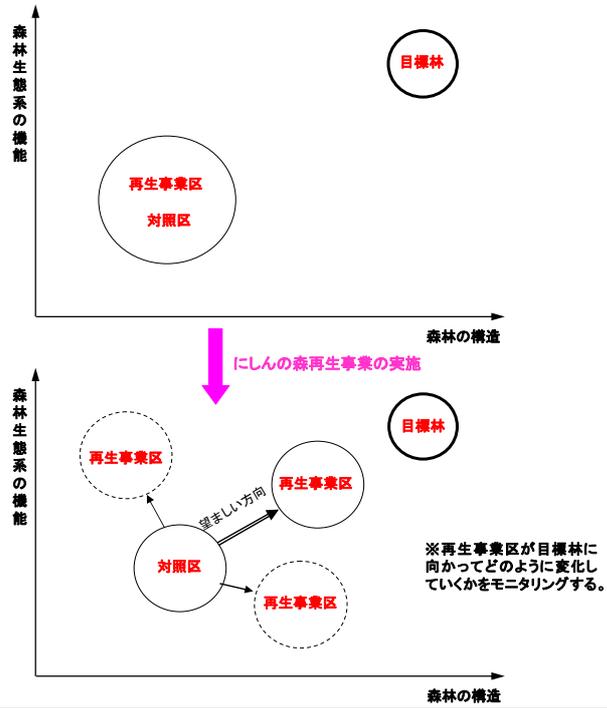
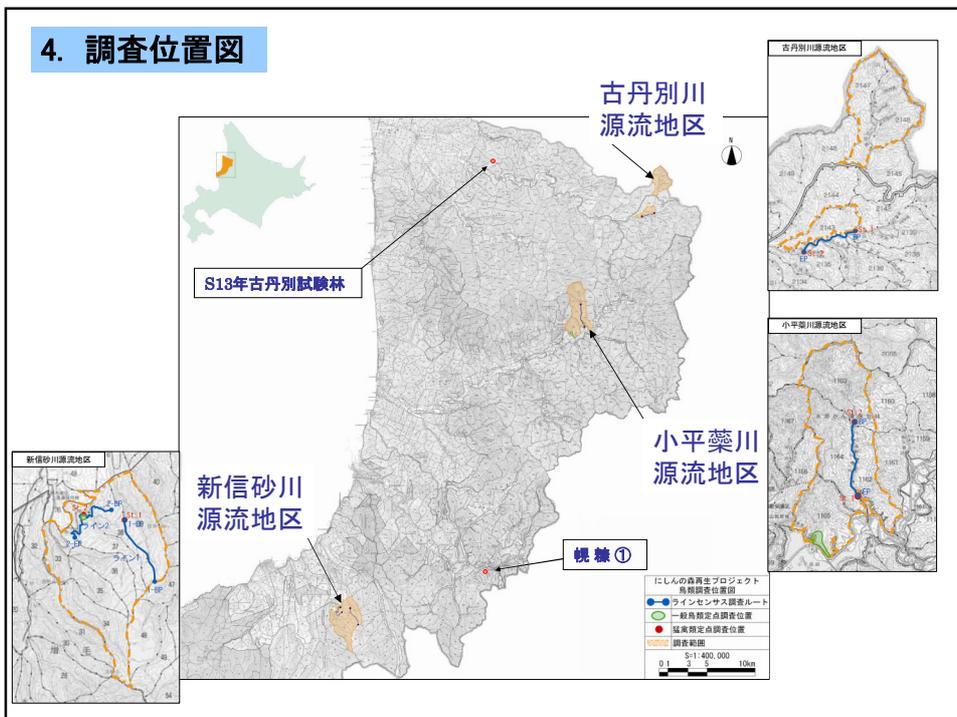


### 3. 評価のイメージ



### 4. 調査位置図



## 5. 調査方法と調査地点

- 鳥類は、ラインセンサス(2km)、一般鳥類定点、猛禽類定点、夜間定点調査を実施した。
- 哺乳類は、痕跡調査、ネズミ捕獲調査、自動撮影調査を実施した。

調査項目	地区	地点	目標林	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区				新信砂川源流地区				
			機軸① (目標林)	古丹別① (対照区)	古丹別② (対照区)	小平薬① (対照区)	小平薬② (対照区)	小平薬③ (対照区)	小平薬④ (事業区)	信砂① (先行 事業区)	信砂② (事業区)	信砂③ (先行 事業区)		
鳥類	ラインセンサス	古丹別	ライン1		●									
		小平薬	ライン1				●							
		信砂	ライン1										●	
	一般鳥類定点調査	小平薬	ライン2											
			St1				●							
			St2							●				
		信砂	St1								●			
			St2									●		
			St3										●	
	猛禽類定点・夜間定点	古丹別	St1		●									
			St2											
		小平薬	St1				●							
St2									●					
St1													●	
St2													●	
哺乳類	痕跡調査	古丹別	ライン1		●									
		小平薬	ライン1				●							
		信砂	ライン1										●	
	捕獲調査	古丹別	ライン2											
			St1		●									
	自動撮影	古丹別	St2			●								
古丹別A				●										
信砂		古丹別B												
		信砂A									●			
		信砂B											●	
信砂C											●			
信砂D												●		

- 両生・は虫類は、ラインセンサスによる確認調査を実施した。
- 昆虫類は、任意採取の他に、歩行性昆虫を対象にしたバイトトラップ調査を実施した。

調査項目	地区	地点	目標林	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区				新信砂川源流地区				
			機軸① (目標林)	古丹別① (対照区)	古丹別② (対照区)	小平薬① (対照区)	小平薬② (対照区)	小平薬③ (対照区)	小平薬④ (事業区)	信砂① (先行 事業区)	信砂② (事業区)	信砂③ (先行 事業区)		
両生・は虫類調査	ラインセンサス	古丹別	ライン1		●									
		小平薬	ライン1				●							
		信砂	ライン1										●	
昆虫類	任意採取調査	古丹別	ライン2											
			St1		●									
		小平薬	ライン1				●							
			ライン2											
			St1											●
			St2							●				
	バイトトラップ	信砂	St1											●
			St2											
			St3											●
St4														

## 6. 調査結果の解析方法

- 調査により得られたデータは、森林を生活環境とした生物群集の種組成のデータ。
- 林分帯状区を単位として動植物構成の比較を行う。
- 序列化に重点を置き、主にDCA(除歪対応分析)により解析を行う。

## 7. 林分の解析

### (1) 目標林と復元事業区・対照区の比較 (目標林から見て何が足りないか?)

林分区分	樹種	胸高直径 (cm) 階別の個体数										S13年 古丹別との比較						
		~10	~27	~47	~67	~87	~107	~112	計	~10	~27	~47	~67	~87	~107	~112	計	
S13年 古丹別	トドマツ	228	109	26	17	3	1	1	319									
	ミズナラ	30	89	18	3			130										
	イタヤカミナリ	26	108	12	1			147										
	ダケカンバ	24	21	20	3			68										
	ウツギカミナリ	15	14	32	3			64										
	ナナカマド	26	19	4				49										
	ホオノキ	21	22					44										
	ハナカサネ	16	18					34										
	コシアブラ	2	6	3				11										
	ハリギリ	46	2	2	1			51										
	アズキナシ	6	2					8										
	キハダ	13	1					14										
	エゾヤマザクラ	1						1										
	シクリザクラ	1						1										
オニグルミ	1						1											
ケヤマハンノキ																		
ヤマザクラ																		
計	421	390	170	24	8	1	1,019											
目標林①	トドマツ	54	20	10				84	140	64	143							387
	ミズナラ	10	10	60				80	15	100	200							400
	イタヤカミナリ	150	30	30	30	60		260	570	850	250							1,750
	ダケカンバ	30	10					40	40	30	200							270
	ウツギカミナリ	30	10					40	100	100	200							400
	ナナカマド	10	10					20	10	10	20							40
	ホオノキ	10	10					20	80	120	200							320
	ハナカサネ	10	10					20	20	20	40							80
	コシアブラ	20	20	10				50	100	330	330							450
	ハリギリ	10	10					20	10	200	200							320
	アズキナシ	10	10					20	150	150	200							350
	エゾヤマザクラ								10	10	20							40
	シクリザクラ								10	10	20							40
	オニグルミ								10	10	20							40
ケヤマハンノキ																		
ヤマザクラ																		
計	400	230	60	80	60	0	830	1,400	850	2,000							3,250	
古丹別①	トドマツ	330	10					340	140	80	100							660
	ミズナラ	20	10					30	180	180	200							580
	イタヤカミナリ	210	150	10	10			380	1,200	1,500	1,000							4,080
	ダケカンバ	60	30					90	100	100	200							490
	ウツギカミナリ	10	10					20	100	100	200							420
	ナナカマド	10	10					20	80	100	200							380
	ホオノキ	10	10					20	80	100	200							380
	ハナカサネ	10	10					20	80	100	200							380
	コシアブラ	20	20	10				50	100	300	300							450
	ハリギリ	10	10					20	100	200	200							520
	アズキナシ	10	10					20	150	150	200							370
	エゾヤマザクラ								10	10	20							40
	シクリザクラ								10	10	20							40
	オニグルミ								10	10	20							40
ケヤマハンノキ																		
ヤマザクラ																		
計	2,020	280	100	10	0	0	2,400	4,000	2,500	3,000							9,500	

■ 欠 S13年 古丹別には有るが、該当林分には無いもの  
■ S13年 古丹別と比較して半分より少ないもの  
■ S13年 古丹別と比較して0.5~2倍の存在するもの  
■ S13年 古丹別と比較して2倍より多いもの  
■ S13年 古丹別には無いが、該当林分には有るもの  
 %は各階級別の本数比率 (該当林分÷S13年 古丹別×100)

### (2) 構成要素からみた各林分の特徴

#### ● 樹種別出現本数による順位付け

順位	目標林		古丹別川源流地区				小平薬川源流地区				新信砂川源流地区										
	S13年 古丹別	樹種①	古丹別①	古丹別②	古丹別③	古丹別④	小平薬①	小平薬②	小平薬③	小平薬④	信砂①	信砂②	信砂③	本数							
1	トドマツ	37	ヘニイナ	25	キハダ	60	ケヤマハンノキ	31	イタヤカミナリ	30	イタヤカミナリ	100	トドマツ	94	トドマツ	75	ホオノキ	26	シナノキ	17	
2	イタヤカミナリ	15	ミズナラ	19	オオカミナリ	52	ヘニイナ	21	シナノキ	22	トドマツ	62	イタヤカミナリ	18	ウツギカミナリ	8	トドマツ	17	ダケカンバ	16	
3	シナノキ	14	トドマツ	13	ヘニイナ	37	ダケカンバ	18	ウツギカミナリ	13	シナノキ	33	シナノキ	10	ダケカンバ	5	ダケカンバ	11	イタヤカミナリ	15	
4	シナノキ	8	ウツギカミナリ	8	トドマツ	33	オオカミナリ	13	キハダ	13	オオカミナリ	18	ホオノキ	6	シナノキ	5	ホオノキ	11	キハダ	8	
5	ダケカンバ	6	コシアブラ	5	オオノキ	32	キハダ	12	オオカミナリ	12	オオカミナリ	18	オニグルミ	5	シナノキ	3	イタヤカミナリ	10	ハリギリ	5	
6	ナナカマド	5	ホオノキ	4	ハリギリ	28	シナノキ	11	ミズナラ	11	キハダ	15	ミズナラ	3	イタヤカミナリ	3	ハリギリ	4	トドマツ	4	
7	ハリギリ	5	ダケカンバ	3	オニグルミ	11	ミズナラ	7	トドマツ	9	オニグルミ	11	オニグルミ	3	ヤチダモ	3	キハダ	3	コシアブラ	3	
8	ホオノキ	4	ウツギカミナリ	2	イタヤカミナリ	9	ハナカサネ	5	ダケカンバ	8	ホオノキ	11	ヤチダモ	3	ナナカマド	2	ホオノキ	3	ホオノキ	1	
9	ウツギカミナリ	3	シナノキ	2	ダケカンバ	6	オニグルミ	2	オオカミナリ	7	オニグルミ	7	ハリギリ	2	オオカミナリ	2	オオカミナリ	2	オオカミナリ	1	
10	キハダ	1	ハリギリ	1	ウツギカミナリ	6	イタヤカミナリ	2	ナナカマド	5	ミズナラ	5	オオカミナリ	3	オオカミナリ	2	オオカミナリ	2	オオカミナリ	1	
11	アズキナシ	1	アズキナシ	1	ミズナラ	5	ウツギカミナリ	1	ケヤマハンノキ	3	ハリギリ	5	キハダ	2							
12	コシアブラ	1			ミズナラ	5	ハリギリ	1	シクリザクラ	2	ヤマザクラ	2	ヤマザクラ	2							
13					ハナカサネ	4	ホオノキ	1	オオカミナリ	2	ヤチダモ	4	ミズナラ	1							
14					ミズナラ	3	ウツギカミナリ	1	オニグルミ	1	オニグルミ	4									
15					オニグルミ	3			ハリギリ	1	ミズナラ	2									
16					オニグルミ	3			コシアブラ	1	エゾヤマザクラ	2									
17					ヤチダモ	2															
18					ヤマザクラ	2															
19					ハリギリ	2															
20					ウツギカミナリ	1															
21					ウツギカミナリ	1															
22					ケヤマハンノキ	1															
23					ナナカマド	1															
24					ホオノキ	1															
25					コヤマシ	1															
計		100		83		309		126		140		302		152		102		86		6	70

- 目標林の主要構成種は、トドマツ、イタヤ、ミズナラであり、その他、シナノキ、ウツギカミナリ、ホオノキ、ダケカンバ、ハリギリ、コシアブラ等を混生する。
- 古丹別川源流地区の林分は、キハダ、ケヤマハンノキ、イタヤ、ダケカンバ、シナノキからなり、特に古丹別①で樹種数、本数とも多くなっている。古丹別②ではケヤマハンノキが多い。
- 小平薬川源流地区では、小平薬①ではイタヤ、シナノキが多い。トドマツ造林地の小平薬②、③、④では、イタヤ、シナノキの自然更新が比較的多くなっている。広葉樹が優占する小平薬②では樹種数も多い。
- 新信砂川源流地区では、シナノキ、イタヤ、ダケカンバ、ホウノキ、トドマツが多い。種数が比較的小さい。

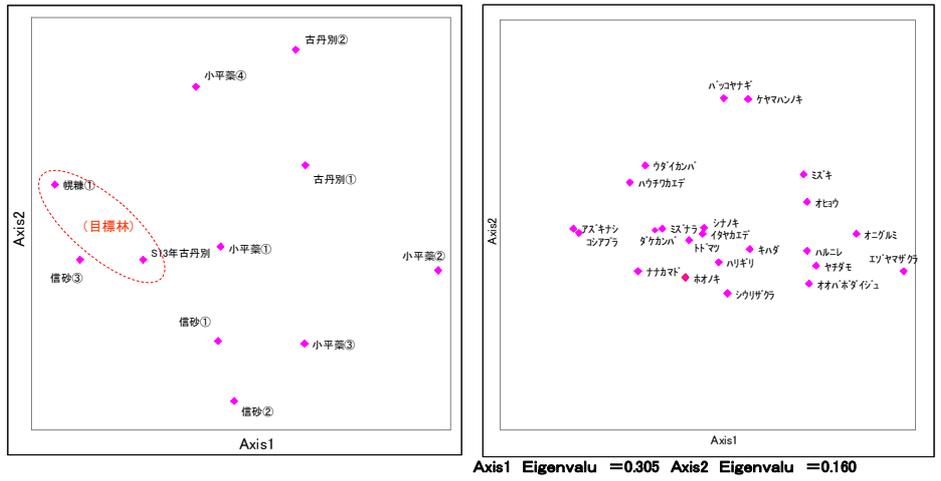
● 樹種別の胸高直径の合計値(BA)による順位付け

順位	目標林		古丹別川源流地区				小平薬川源流地区				新信砂川源流地区											
	S13年古丹別 種名	BA	標線① 種名	BA	古丹別① 種名	BA	古丹別② 種名	BA	小平薬① 種名	BA	小平薬② 種名	BA	小平薬③ 種名	BA	小平薬④ 種名	BA	信砂① 種名	BA	信砂② 種名	BA	信砂③ 種名	BA
1	ミズナラ	440	ミズナラ	890	ヘニイタヤ	535	ヘニイタヤ	344	イタヤカエデ	355	イタヤカエデ	1051	トマツ	1934	トマツ	1650	ダケカンパ	324	ハリギリ	33	ダケカンパ	242
2	トマツ	389	ヘニイタヤ	289	シナノキ	177	ケヤマハンノキ	310	シナノキ	253	トマツ	588	イタヤカエデ	151	ウダイカンパ	135	シナノキ	313	赤オノキ	33	トマツ	208
3	イタヤカエデ	231	トマツ	217	キハダ	162	シナノキ	137	ミズナラ	234	シナノキ	276	シナノキ	125	ダケカンパ	70	イタヤカエデ	210	イタヤカエデ	24	ミズナラ	150
4	ダケカンパ	165	ハウチカエデ	96	イタヤカエデ	141	キハダ	72	トマツ	135	オオハネダマシ	123	ヤチダモ	84	ミズナラ	65	トマツ	163	ダケカンパ	23	イタヤカエデ	89
5	シナノキ	165	コシアブラ	87	トマツ	126	ダケカンパ	40	ダケカンパ	84	キハダ	83	ミズナラ	46	シナノキ	55	赤オノキ	100	キハダ	20	ナナカマド	73
6	ナナカマド	57	赤オノキ	36	オオカメノキ	87	オヒョウ	38	赤オノキ	57	ハリギリ	83	キハダ	36	ヤチダモ	45	ハリギリ	84	シナノキ	1	シナノキ	85
7	赤オノキ	49	ハリギリ	22	ハルニレ	81	オオカメノキ	29	ウダイカンパ	49	ヤチダモ	73	赤オノキ	35	イタヤカエデ	25	ナナカマド	52	ナナカマド	1	赤オノキ	36
8	ハウチカエデ	33	シナノキ	21	ハリギリ	75	イタヤカエデ	24	キハダ	43	ハルニレ	67	ハリギリ	21			キハダ	30	コシアブラ	1	コシアブラ	26
9	ハリギリ	31	ダケカンパ	17	ヤチダモ	44	ミズナラ	22	ナナカマド	24	オニグルミ	67	ハルニレ	18			オオカメノキ	3			オオカメノキ	4
10	コシアブラ	22	ウダイカンパ	16	オヒョウ	32	ハウチカエデ	18	オオハネダマシ	18	オヒョウ	65	オヒョウ	14								
11	アスキノナ	16	アスキノナ	7	ミズナラ	21	ハリギリ	7	ハリギリ	16	エゾヤマザクラ	62	オオハネダマシ	13								
12	キハダ	7			ダケカンパ	14	ハウチカエデ	6	コシアブラ	9	ミズナラ	49	シクリザクラ	6								
13					ミズナラ	11	クワリザクラ	4	シクリザクラ	7	赤オノキ	45	ミズナラ	2								
14					ハウチカエデ	11	赤オノキ	2	ケヤマハンノキ	4	ヤマクワ	41										
15					ツバハシハミ	10			オオカメノキ	3	オオカメノキ	40										
16					マミ	10			ハルニレ	2	ミズナラ	11										
17					オニグルミ	9																
18					ハウチカエデ	8																
19					ヤマクワ	8																
20					リウウキ	5																
21					赤オノキ	3																
22					ナナカマド	2																
23					ウダイカンパ	1																
24					ケヤマハンノキ	1																
25					コヤマ	1																
計		1605		1698		1575		1053		1289		2724		2482		2045		1278		133		893

- 目標林のBAは、ミズナラが最も高く、次にトマツ 又は イタヤとなっている。目標林でのBA計はおおよそ1600~1700である。
- 古丹別川源流地区では、イタヤのBAが最も高い。続いて古丹別①ではシナノキ、キハダ、古丹別②ではケヤマハンノキ、シナノキとなっている。
- 小平薬川源流地区では、小平薬①ではイタヤ、シナノキ、ミズナラのBAが多い。トマツが成林した小平薬③、④では、トマツのBAが圧倒的に高い。広葉樹が優占する小平薬②ではイタヤのBAが高い。
- 新信砂川源流地区では、ダケカンパのBAが高い。また、信砂②のBA計が少ない。

(3) DCA(除歪対応分析)による林分の序列化

- 樹種別の胸高直径の合計値(BA)を用いて、DCA分析を実施。



- 左図は各林分の序列化平面における位置を、右図は出現種の序列化平面における位置を表している。近くにプロットされている林分ほどBA構成が似ており、遠いほど違っている。
- 小平薬①、信砂①、信砂③がS13年古丹別の近くに比較的に位置している。
- ミズナラ、トマツ、イタヤ、シナノキ、ダケカンパ等のBA値が大きい種が中心に集まっており、各林分に頻りに出現していることを示す。

(4) 下層植生の分析

- 林床に出現した下層植生の被度合計値による順位付け(上位10種)

凡例(色)	
高木様雑樹	
低木様雑樹	
つる木本	
草本	

順位	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区		信砂川源流地区	
	古丹別① 方形区数:6	古丹別② 方形区数:6	小平薬① 方形区数:6	小平薬② 方形区数:4	小平薬③ 方形区数:6	
1	クマイザサ 290	クマイザサ 590	クマイザサ 545	クマイザサ 201	クマイザサ 265	
2	チシマザサ 155	サルナシ 70	イワガラミ 31.2	ヤマグワ 20.1	ハリウツギ 100	
3	ハイヌガヤ 90.1	ウド 45	ツタウルシ 11.1	ハイヌガヤ 16	ハイヌガヤ 96	
4	サルナシ 65	ヤマブドウ 35	ミスナラ 11	コマユミ 10	ツタウルシ 90	
5	ハンゴンソウ 61	ミヤマベニシダ 20	ウド 10	サラシナショウマ 10	オオカメノキ 25	
6	ツタウルシ 51	ハンゴンソウ 15	トドマツ 5.1	イワガラミ 5	ハリギリ 20	
7	ミヤマベニシダ 41	オオハナウド 10	チシマザサ 5	オオカメノキ 5	サルナシ 15	
8	ウド 35	ミヤママタタビ 5	キハダ 2.1	クルマバナ 5	ヤマグワ 11.1	
9	ミヤママタタビ 21	ツタウルシ 1.1	ハウチワカエデ 1	リョウモンシダ 5	イワガラミ 11	
10	ムカゴイラクサ 12.1	オオイトドリ 1	ヒメシラスゲ 1	ジュウモンシダ 1	ベニイタヤ 11	
計	44種 821	24種 792	22種 622.5	22種 278	30種 644	

順位	信砂①		信砂②		信砂③	
	方形区数:6	方形区数:5	方形区数:6	方形区数:6	方形区数:6	方形区数:6
1	クマイザサ 270	クマイザサ 145	ダケカンバ 240			
2	ツタウルシ 91	ヤマブドウ 6.1	チシマザサ 150.1			
3	シナノキ 20.2	サルナシ 5.1	ツタウルシ 61			
4	トドマツ 11.1	ツタウルシ 1.1	トドマツ 36.1			
5	ヤマブドウ 11	キハダ 0.3	ヤマウルシ 31.1			
6	イワガラミ 10.2	イワガラミ 0.2	イワガラミ 25.2			
7	ベニイタヤ 10.1	ヨツバヒヨドリ 0.2	キハダ 11.2			
8	ダケカンバ 10.1	シナノキ 0.1	シナノキ 10.1			
9	サルナシ 6	ダケカンバ 0.1	ナナカマド 7.2			
10	オオカメノキ 5	ホオノキ 0.1	クロツリバナ 5			
計	24種 445	12種 158	21種 577			

- 古丹別川源流地区では、主にクマイザサが優占する。またサルナシ、ヤマブドウ等のつる類が多い。
- 小平薬川源流地区では、クマイザサが優占し、つる類の他、ハリウツギ、ハイヌガヤ、オオカメノキ等の低木類、ミスナラ、ヤマグワ、ハリギリ等の高木樹の雑樹がある。
- 信砂川源流では、ササ類が優占するが、地帯区画所では、ダケカンバ、トドマツ、シナノキ、ベニイタヤ、キハダ等の雑樹がある。信砂③ではダケカンバの自然更新が多い。

8. 鳥類の解析

- 鳥類ラインセンサス(2km)による確認種数(春2回の合計)

区分	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区		信砂②		信砂③		
	種	個体数	種	個体数	種	個体数	種	個体数	
高	アオジ 30	センダイムシクイ 37	ウグイス 29	コルリ 30					
	キビタキ 23	キビタキ 21	センダイムシクイ 17	ヒガラ 28					
	センダイムシクイ 17	ウグイス 18	キビタキ 12	ウグイス 15					
	ウグイス 15	アオジ 19	コルリ 10	コサメビタキ 14					
	キツサメ 6	ツツドリ 6	アオジ 10	アオジ 14					
	クロツグミ 4	キツサメ 5	キシバト 5	キビタキ 12					
	ミツササユイ 3	アカガラ 4	カワラヒワ 5	センダイムシクイ 9					
	ヒヨドリ 3	ヒヨドリ 3	ツツドリ 4	アカハラ 7					
	キタイタギ 2	コサメビタキ 3	コサメビタキ 4	ハンブトガラ 6					
	ホノムシクイ 2	ハンブトガラ 3	イカル 4	ツツドリ 5					
	コルリ 2	シジュウカラ 3		ハリオアマツバメ 5					
	キセキレイ 2	ゴジュウカラ 3		シジュウカラ 5					
		クロジ 3							
		イカル 3							
低									
生息環境別確認種数	区分	科種数	個体数	科種数	個体数	科種数	個体数	科種数	個体数
	広葉樹林	3科3種	11	4科4種	62	4科4種	35	4科4種	25
	広葉樹林(明るい)	3科4種	7	2科4種	7	2科4種	11	2科3種	17
	広葉樹林(ササ地)	2科3種	23	2科3種	26	2科3種	39	2科3種	47
	針葉樹林・針広混交林	4科5種	9	4科4種	7	2科2種	5	4科5種	38
	疎林・低木・ササ地	1科1種	30	2科2種	20	1科1種	10	1科1種	14
	河川・開放地	1科1種	2	—	—	2科3種	7	1科1種	1
生息状況	区分	科種数	個体数	科種数	個体数	科種数	個体数	科種数	個体数
	周年	6科6種	11	7科11種	23	3科6種	9	7科11種	57
	夏鳥	9科16種	108	7科17種	127	10科20種	117	8科18種	127
	旅鳥					1科1種	2	1科1種	4
総計	科・種数・個体数	14科22種	119	14科30種	153	14科34種	193	13科28種	131

- 鳥類ラインセンサス(2km)沿いの森林区分

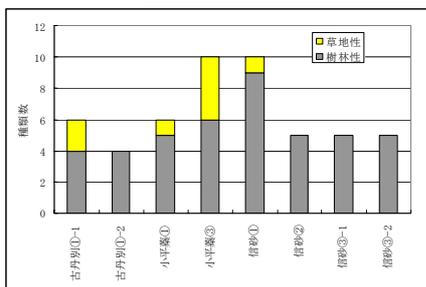
No	記号	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区		信砂②		信砂③	
		区分面積(ha)	確認種数	区分面積(ha)	確認種数	区分面積(ha)	確認種数	区分面積(ha)	確認種数
1	広若	1.47	4			0.54	6	3.93	10
2	広社	6.54	11	8.50	14	5.06	17	1.03	9
9	人坊					1.56	6		
10	人寺								
14	雑草	0.58	2						
15	ササ	0.57	4	0.69	2	2.15	9	5.03	12
16	河川	0.96	2	1.22	5	0.19	1		
17	湿地	0.18	0	0.38	1				
18	サ萩					0.37	3		
計		10.90	15	10.80	15	9.87	24	9.98	18



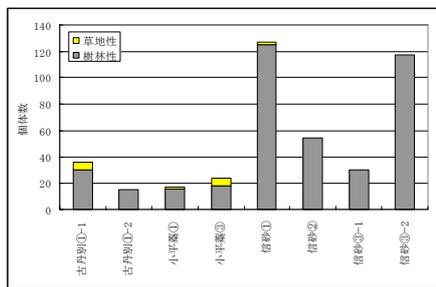


● **ベイトトラップによる歩行性昆虫(オサムシ)の分析**

種(和名)	古丹別川源流地区		小平薬川源流地区		新信砂川源流地区			合計	生息環境区分	
	古丹別①-1	古丹別①-2	小平薬①	小平薬③	信砂①	信砂②	信砂③-1			信砂③-2
セダカオサムシ	2	4	3			1		10	樹林性	
ロブシアカガネオサムシ					4			4	樹林性	
エゾクロオサムシ		2	1					3	樹林性	
ヒメクロオサムシ	23	8	2	10	68	3	22	105	241	樹林性
オオルリオサムシ					2	7		9	樹林性	
エゾマイマイカブリ			2	1	2	11	1	17	樹林性	
ヒナカゴコムシ	1			1				2	樹林性	
ヒナカゴコムシ				1				1	草地性	
ヨツボシミスギコムシ	1							1	草地性	
ツンベルクナガコムシ	4	1	8	2	40	32	3	7	97	樹林性
アトマルナガコムシ				2	2		2	1	7	樹林性
コガシラナガコムシ					2			2	2	草地性
ダイヤツモリヒラタコムシ					1			1	2	樹林性
コクツヤヒラタコムシ					1	4		3	10	樹林性
ヒメクワヤヒラタコムシ					2			2	2	樹林性
マルカクツヤヒラタコムシ						2		2	2	樹林性
ハスクワヤヒラタコムシ					1			1	1	草地性
ムネアカマモモコムシ				1	3			4	4	草地性
アオコムシ	5			1				6	6	草地性
種数	6	4	6	10	10	5	5	5	19	
個体数	36	15	17	24	127	54	30	117	420	
多様度指数	1.34	0.64	1.64	1.85	2.75	2.16	1.68	1.64		



各地点と捕獲種数の関係



各地点と捕獲個体数の関係

**12. 協働の森づくり2008**

- 平成20年11月1日(土)に、「北の魚つきの森事業(留萌支庁)」、「北の大地の森林循環プロジェクト(留萌支庁)」と連携し、新信砂源流地区において、地域の方の協力を得ながらの森林整備活動である「協働の森づくり2008(留萌南部森林管理署、留萌支庁)」を実施した。
- 当日は、共催する留萌支庁、留萌森づくりセンター、増毛町教育委員会のほか、地元から「増毛町の豊かな森・川・人・海をつくる増毛実行委員会」、地域の小学校で構成される「増毛町何でも探検隊」、森林整備を主体にボランティア活動を実施している「NPO法人美林舎」ら約70人が参加した。
- 新信砂源流地区37林班と小班(にしんの森再生プロジェクト調査地区の信砂②)において、ミズナラ、トドマツを290本植樹した。

